

最近の管内経済概況

(2022年2月の経済指標を中心として)

～ 新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、
持ち直しの動きが弱まっている ～

最近の動きをみると、

- 生産活動は、持ち直しの兆しがみられる。
- 個人消費は、持ち直しの動きに弱さがみられる。
- 観光は、弱い動きがみられる。
- 公共工事は、増加している。
- 住宅建設は、弱まっている。
- 民間設備投資は、増加している。
- 雇用動向は、弱い動きがみられる。
- 企業倒産は、件数は減少、負債総額は増加している。

全体として、管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きが弱まっている。

なお、先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響、国際経済の動向等を十分注視する必要がある。

※ 下線部は、前月から判断を変更した部分。

2022年4月18日

照会先 : 経済産業省 北海道経済産業局
総務企画部 企画調査課

T E L : 011-709-2311 内線 2525

E-mail : hokkaido-kikakuchosa@meti.go.jp

U R L : <https://www.hkd.meti.go.jp>

管内経済概況判断の推移

(2022年4月現在)

発 表 月	2021年11月	12月	2022年1月	2月	3月	4月	前月との 判断比較
総 括 判 断	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きに弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きに弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きに弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きに弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きが弱まっている	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きが弱まっている	
生 産 活 動	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	持ち直しの兆しがみられる	持ち直しの兆しがみられる	
個 人 消 費	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	
観 光	低迷している	一部に持ち直しの兆しがみられる	一部に持ち直しの兆しがみられる	一部に持ち直しの兆しがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	
公 共 工 事	減少している	減少している	減少している	減少している	増加している	増加している	
住 宅 建 設	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	弱まっている	
民 間 設 備 投 資	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	
雇 用 動 向	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	
企 業 倒 産	件数、負債総額とも増加している	件数、負債総額とも減少している	件数は増加、負債総額は減少している	件数は同数、負債総額は減少している	件数、負債総額とも増加している	件数は減少、負債総額は増加している	

※下線部は、前月から判断を変更した部分。

 上方修正  据え置き  下方修正

生産活動 ～ 持ち直しの兆しがみられる ～

2月の鉱工業生産は、前月比▲0.8%と2か月ぶりに低下した。前年同月比は+1.0%と12か月連続で上昇した。低下業種は、窯業・土石製品工業など10業種となった。上昇業種は、電気機械工業など5業種となった。

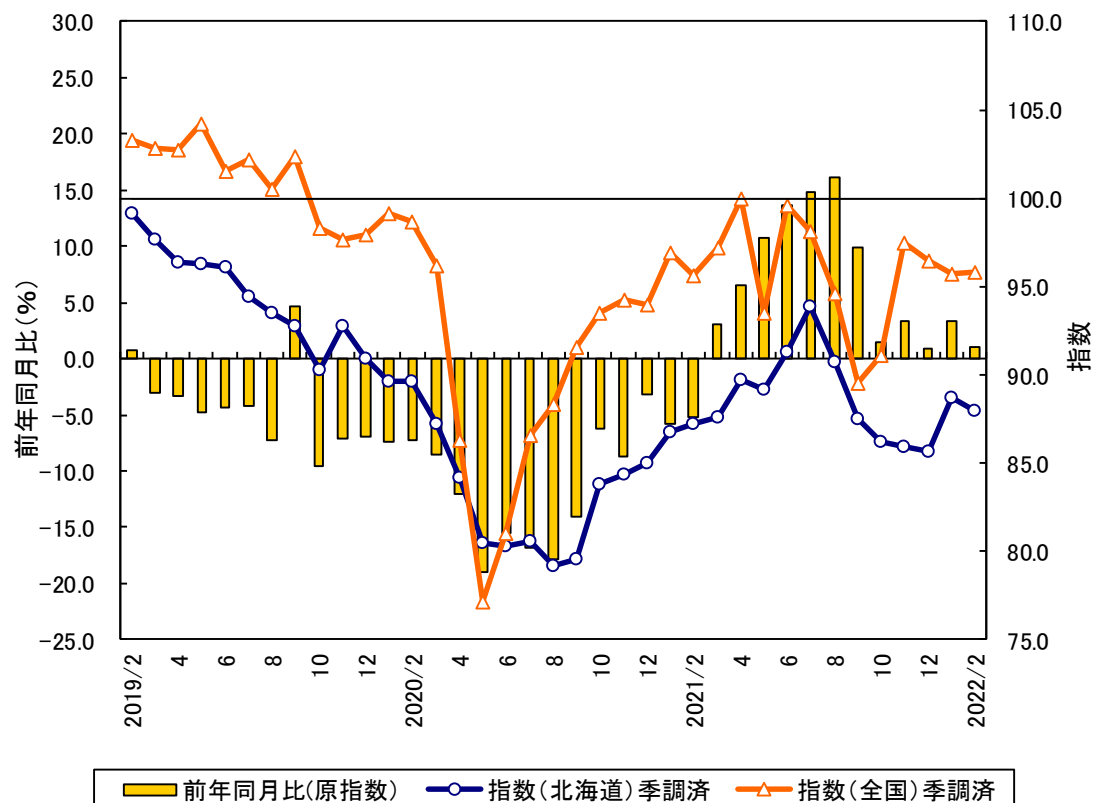
< 2月 >

季節調整済指数

北海道（速報） 88.0（前月比▲ 0.8%）

全 国（速報） 95.8（前月比+ 0.1%）

鉱工業生産指数（2015年=100.0）



【ヒアリング内容】

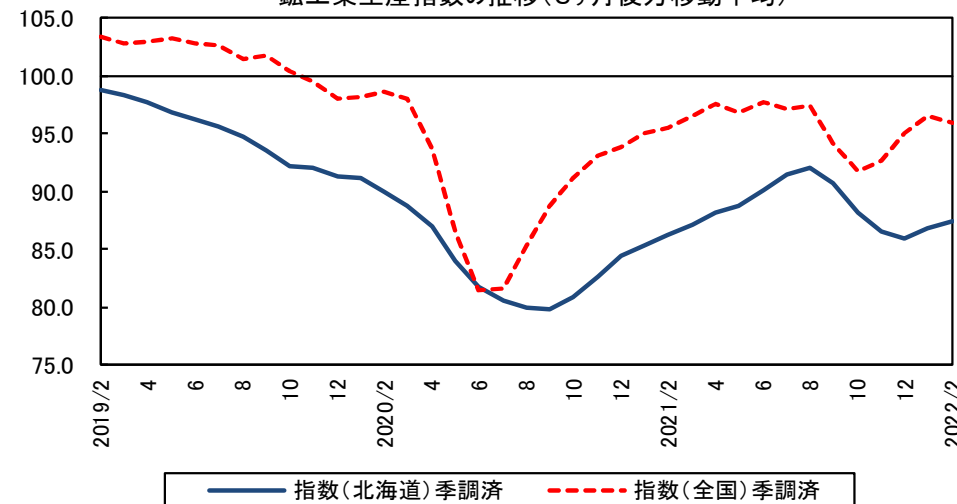
○低下業種

- ・ 荒天による船への積み込み遅れで在庫が一時的に増加したため、窯業・土石製品の生産が減少した。（窯業・土石製品工業）
- ・ 前月に突発的な受注があったことから、2月の化学・石油石炭製品の生産が減少した。（化学・石油石炭製品工業）
- ・ 前月に大型案件があった反動で、2月の鉄骨の生産が減少した。（金属製品工業）

○上昇業種

- ・ 自動車産業が回復してきたことなどから、電子部品の生産が増加した。3月は、ウクライナ情勢の影響が出ている。（電気機械工業）

鉱工業生産指数の推移（3ヶ月後方移動平均）



（資料：経済産業省、北海道経済産業局）

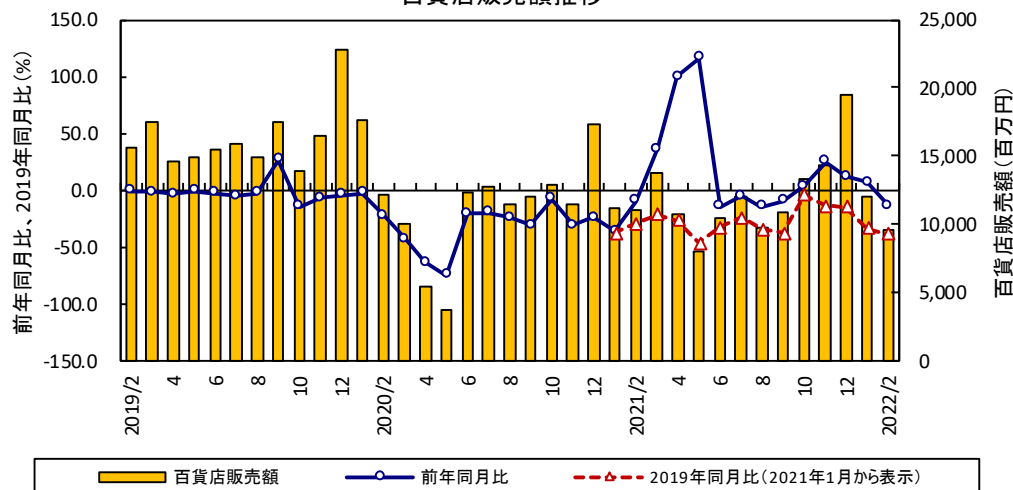
個人消費 ～ 持ち直しの動きに弱さがみられる ～

2月の個人消費は、スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストアは前年を上回り、他の4業態は前年を下回った。

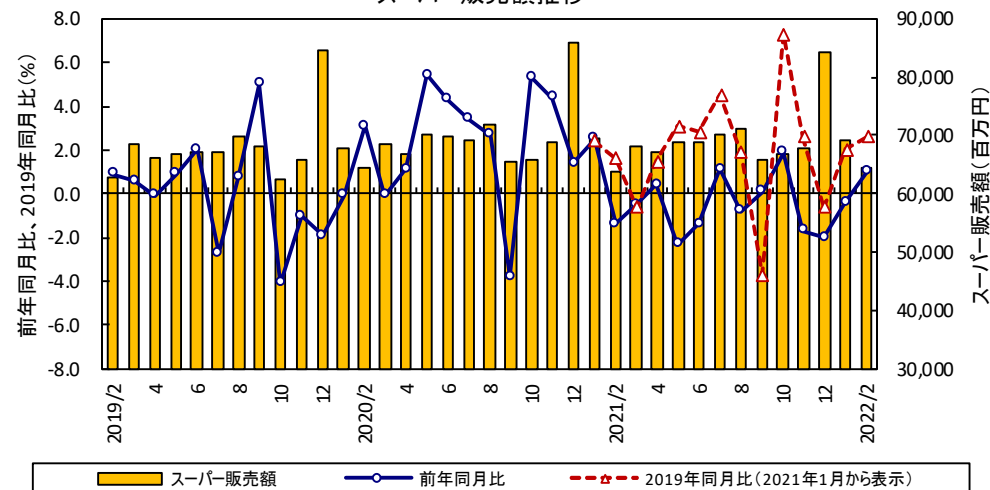
※2019年同月比は、北海道経済産業局「北海道百貨店・スーパー販売動向」掲載の販売額などから算出。

- ・百貨店は、大雪の影響で客数が減少し、前年同月比▲13.2%（2019年同月比▲38.6%）と5か月ぶりに前年を下回った。
- ・スーパーは、衣料品などの売上げが不調だったものの飲食料品が好調で、同+1.0%（同+2.6%）と4か月ぶりに前年を上回った。
- ・コンビニエンスストアは、同+3.3%（同▲0.3%）と4か月連続で前年を上回った。

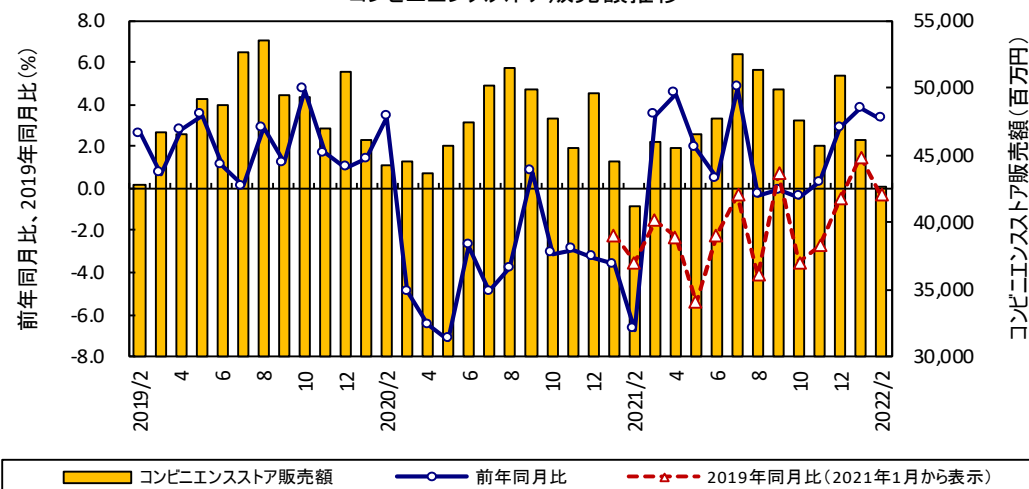
百貨店販売額推移



スーパー販売額推移



コンビニエンスストア販売額推移



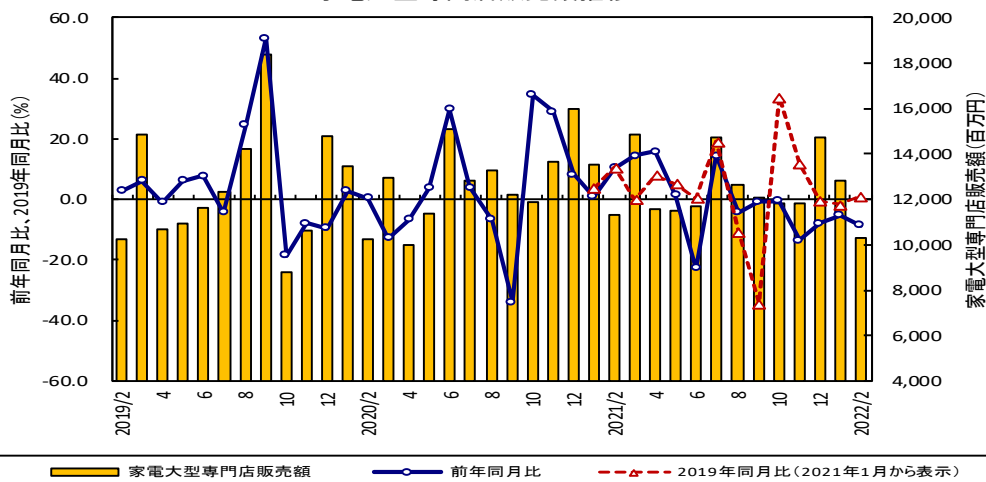
※ 2020年3月に対象事業所の見直しを行ったスーパーの2020年2月以前の販売額については、整合性を図るため調整済み。

【ヒアリング内容】

- ・2度にわたって大雪に見舞われたことに加え、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が高止まりとなったことで、客数が減少した。春物衣料の出足も鈍く、売上げは前年を下回った。（百貨店）
- ・記録的な大雪と道路状況の悪化が続いたことに加え、新規感染者数が高止まりとなった影響で客数が減少し、衣料品の売上げは前年を下回った。一方で、飲食料品はまとめ買いの動きが続いており、売上げは前年を上回った。（スーパー）
- ・大雪の影響による道路状況の悪化が続いたことから、買物を近場で済ませる動きがみられ、住宅街店舗の売上げが良かった。観光地や繁華街の店舗は売上げが減少したものの、これまでの感染拡大期に比べて落ち込みは小さかった。（コンビニエンスストア）

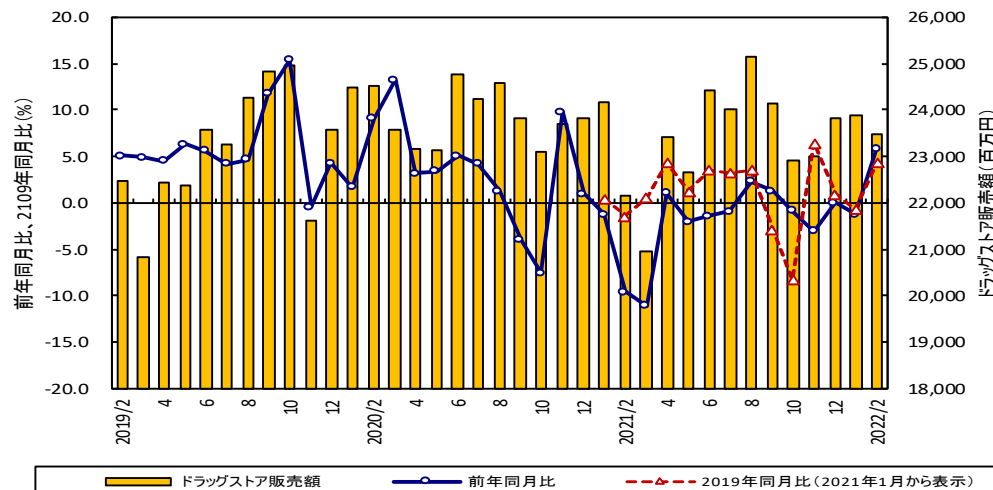
- ・家電販売は、同▲8.6%（同+1.2%）と7か月連続で前年を下回った。ドラッグストアは、同+5.9%（同+4.4%）と2か月ぶりに前年を上回った。ホームセンターは、同▲4.1%（同▲2.0%）と2か月連続で前年を下回った。
- ・新車販売は、同▲15.6%（同▲27.8%）と8か月連続で前年を下回った。

家電大型専門店販売額推移



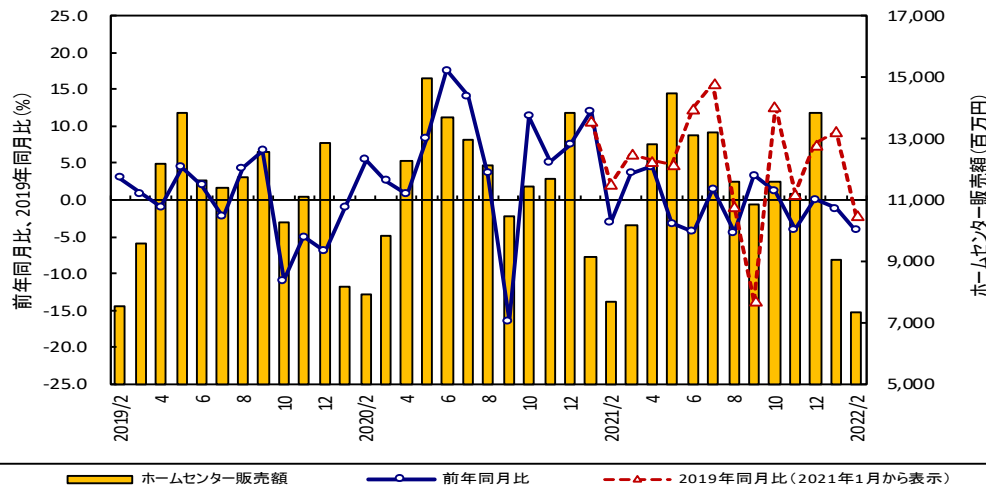
（資料：北海道経済産業局）

ドラッグストア販売額推移



（資料：北海道経済産業局）

ホームセンター販売額推移

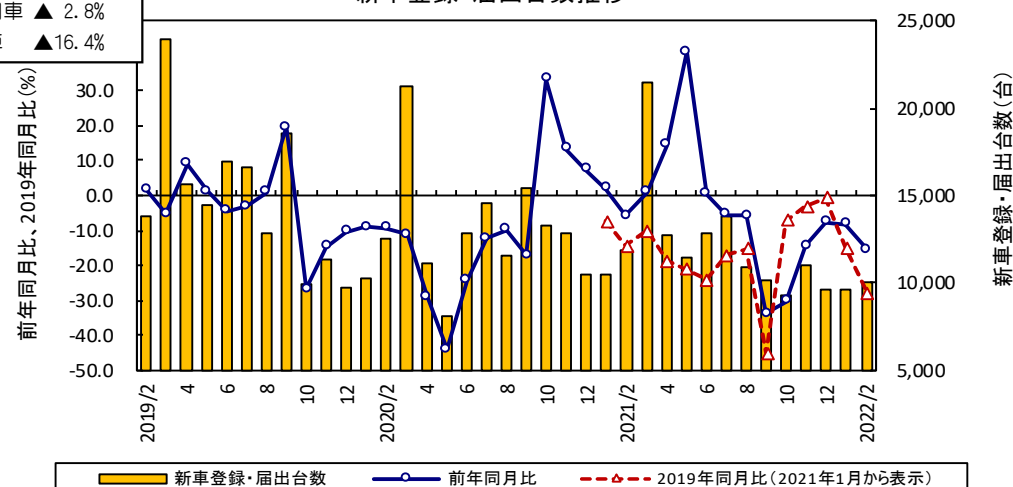


（資料：北海道経済産業局）

< 2月 >

普通乗用車 ▲23.9%
小型乗用車 ▲2.8%
軽自動車 ▲16.4%

新車登録・届出台数推移



（資料：（一社）日本自動車販売協会連合会、（一社）全国軽自動車協会連合会）

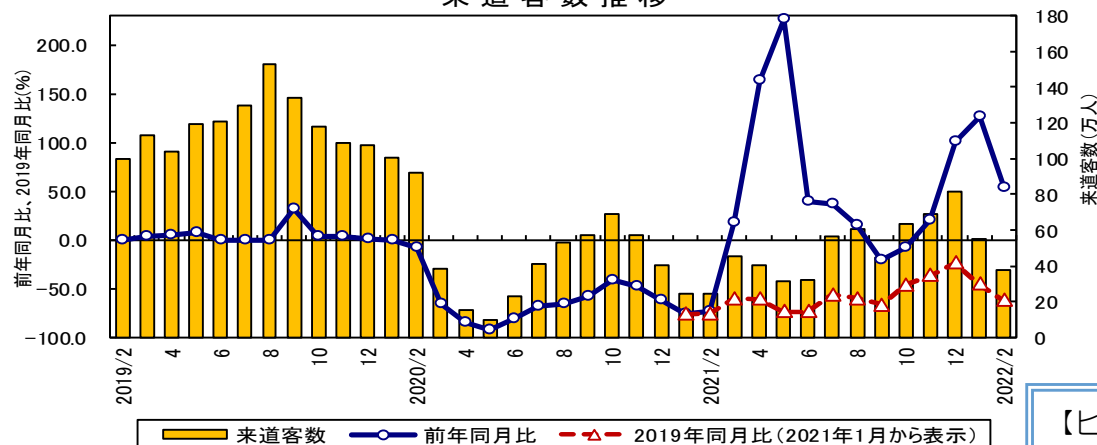
【ヒアリング内容】

- ・前年までの巣ごもり需要で好調だった大型テレビや大型冷蔵庫などの大型家電の売上げが、前年を下回る月が続いている。一方で、数は少ないが昨年夏の猛暑の影響で、エアコンを早めに準備する動きがみられるようになった。（家電大型専門店）
- ・感染症拡大に伴い抗原検査キットがよく売れたほか、風邪薬や鎮痛剤などの売上げが良かった。学級閉鎖が続いたこともあり、在宅需要としてインスタント食品などの保存食がよく売れた。（ドラッグストア）
- ・記録的な大雪が続き、除雪用品や屋根の雪下ろし用のはしごなどの売上げが良かったものの、家具や家電製品など在宅需要商品の売上げは、前年好調だった反動で良くなかった。（ホームセンター）

観光 ～ 弱い動きがみられる ～

2月の来道客数は、前年同月比+53.3%（2019年同月比▲62.1%）と4か月連続で前年を上回った。また、道内外国人入国者数は、0人で前年同月と同数となった。

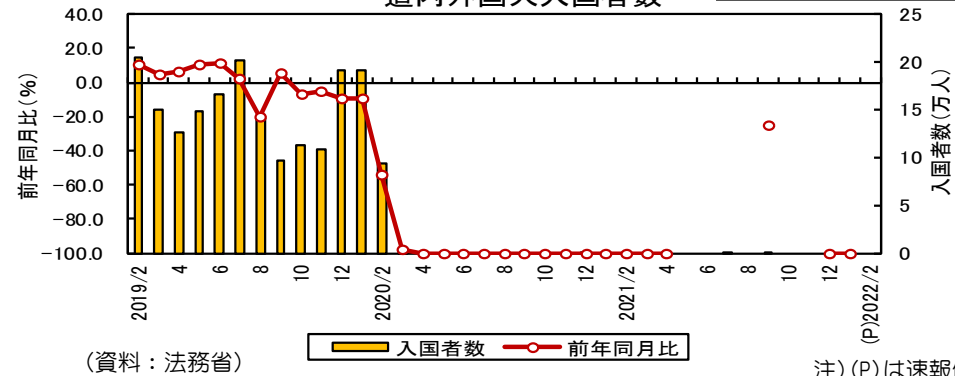
来道客数推移



< 2月 > 来道客数 378,107人 (+53.3%)
 ※北海道外から航空機（国内線）、JR（北海道新幹線）、フェリーを利用して来道した旅客数。
 ※道内で入国手続きを行った外国人数は含まない。

（資料：（公社）北海道観光振興機構）

道内外国人入国者数



（資料：法務省）

注）(P)は速報値

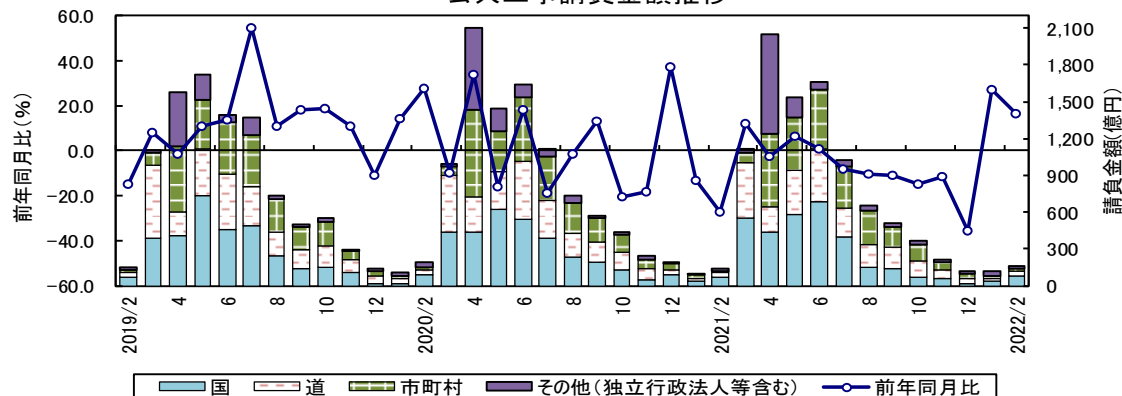
【ヒアリング内容】

- 2月は、新型コロナウイルス感染症が拡大し、一か月を通してまん延防止等重点措置が適用となったこともあり、宿泊客数は低調であった。休館する宿泊施設もあり、平日は特に閑散とした状況であった。一方で、まん延防止等重点措置が解除された3月下旬以降は、卒業旅行者の姿もみられるなど、先行きは若干の持ち直しが期待される。（関係機関）

公共工事 ～ 増加している ～

2月の公共工事請負金額は、国、道、市町村の全てで前年を上回り、前年同月比+16.7%と2か月連続で前年を上回った。

公共工事請負金額推移



< 2月 >

北海道 +16.7%

（内訳）

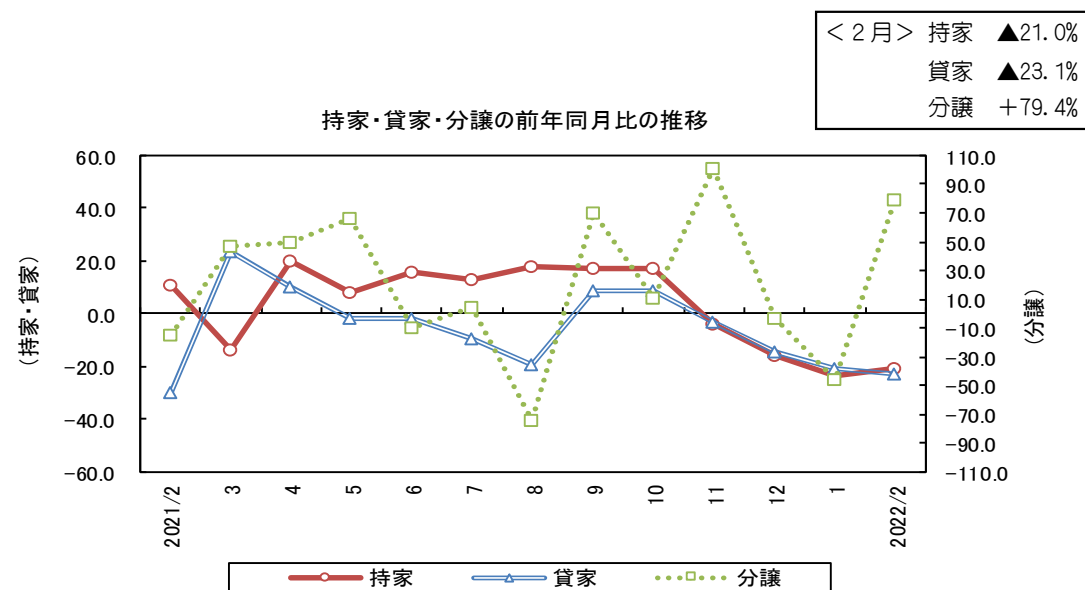
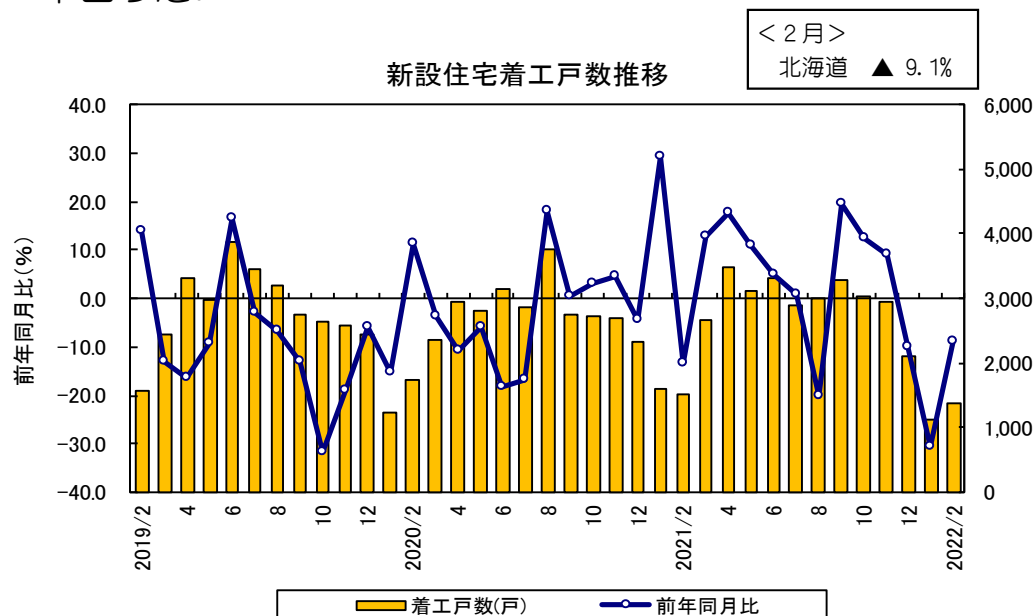
国 + 3.6% 道 +14.3% 市町村 +84.7% その他 +30.4%

（請負金額は国、道、市町村、独立行政法人等の合計額）

（資料：北海道建設業信用保証（株）ほか2社）

住宅建設 ～ 弱まっている ～

2月の新設住宅着工戸数は、分譲は前年を上回ったが、持家、貸家が前年を下回り、前年同月比▲9.1%と3か月連続で前年を下回った。



(資料：国土交通省)

民間設備投資 ～ 増加している ～

2021年度の設備投資計画は、全体で前年度比+5.6%と2年ぶりに前年度を上回った。
なお、2022年度は前年度を下回る計画となっている。

日銀短観の設備投資動向

2022年4月1日発表

	2021年度	2022年度
北海道	+ 5.6%	▲ 5.9%
製造業	▲ 25.1%	+ 8.7%
非製造業	+ 23.3%	▲ 11.1%
全国	+ 4.6%	+ 0.8%

注) 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額を除く。

注) 北海道は、電気・ガスを除くベース。

(資料：日本銀行札幌支店)

法人企業景気予測調査(北海道・設備投資)

2022年3月11日発表

	2021年度	2022年度
全産業	▲ 19.5%	+ 31.9%
製造業	▲ 19.2%	+ 34.4%
非製造業	▲ 19.6%	+ 31.2%

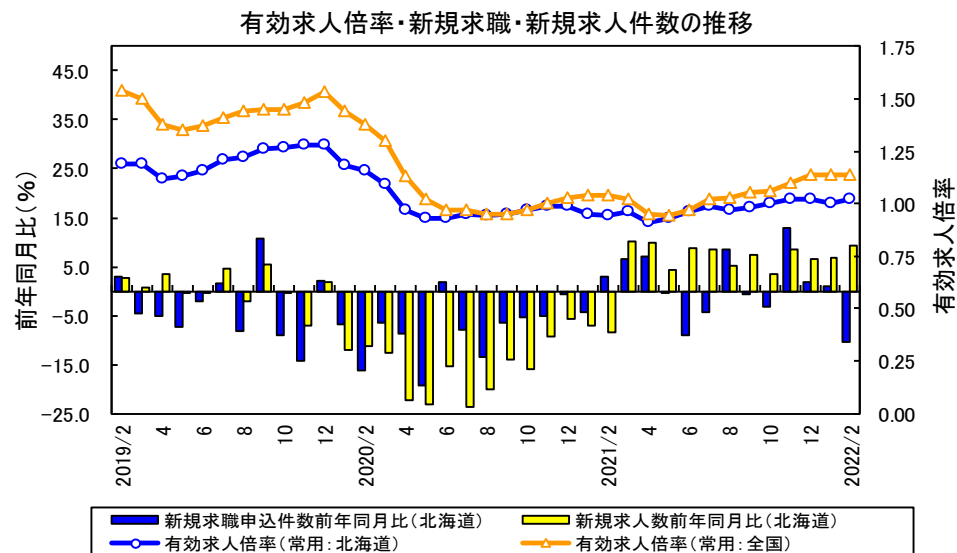
※数値は対前年比増減率。

注) ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く。

(資料：北海道財務局)

雇用動向 ～ 弱い動きがみられる ～

2月の有効求人倍率は、1.02倍と前年同月差0.08ポイント上昇し、9か月連続で前年を上回った。

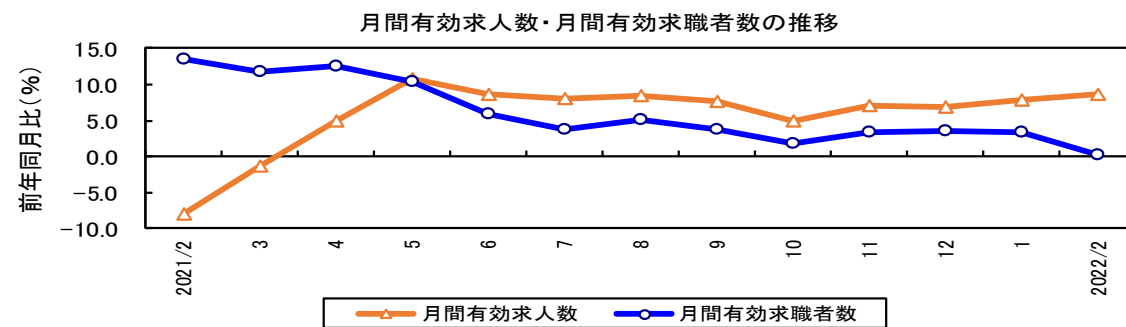


< 2月 >

北海道
有効求人倍率(常用) 1.02倍
新規求人数(前年同月比) + 9.3%
新規求職申込件数(前年同月比) ▲10.5%
全国
有効求人倍率(常用) 1.14倍

< 2月 >

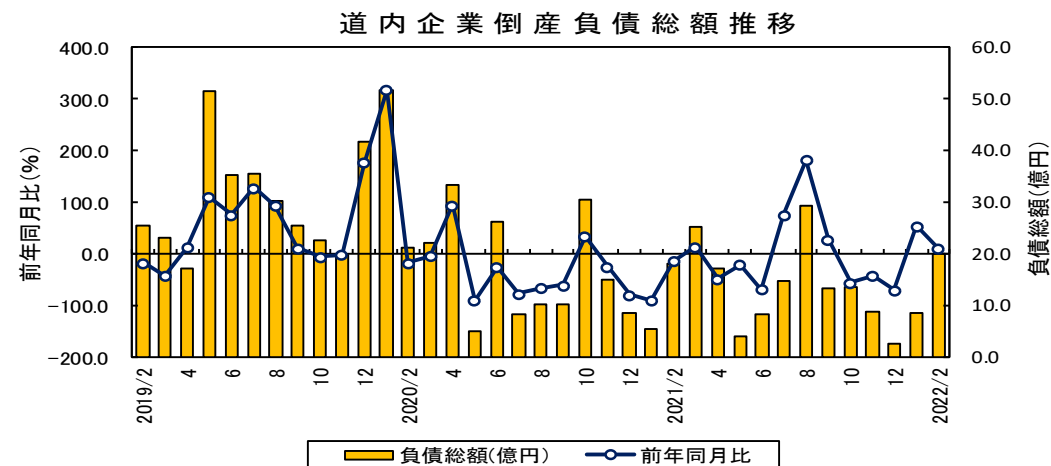
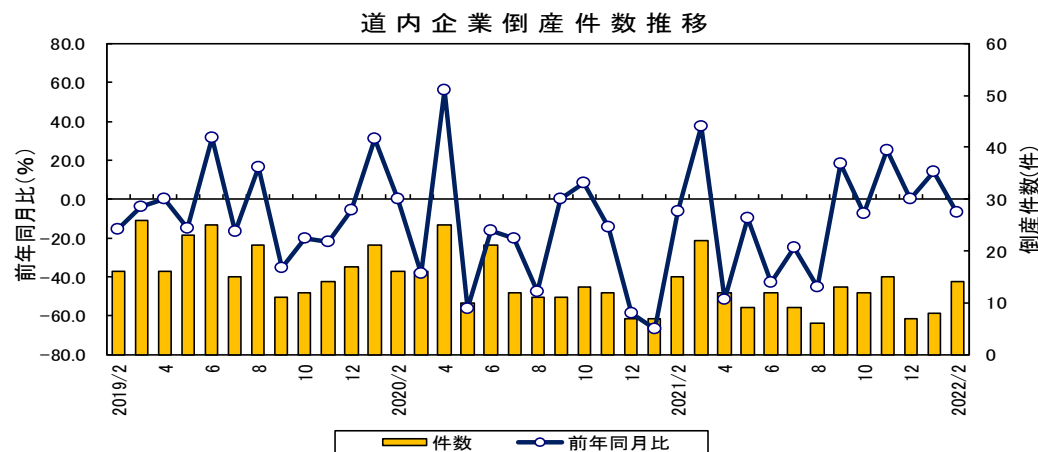
月間有効求人数(前年同月比) + 8.7%
月間有効求職者数(前年同月比) + 0.2%



(資料: 厚生労働省、北海道労働局)

企業倒産 ～ 件数は減少、負債総額は増加している ～

2月の倒産件数は14件で、前年同月比▲6.7%（1件減）と4か月ぶりに前年を下回った。また、負債総額は20.2億円で、同+10.5%と2か月連続で前年を上回った。



(資料: (株)東京商工リサーチ)